

TC46/SC8 ウィーン会議報告 永田治樹

ISO/TC46/SC8/WG 2 (図書館統計)

日時 : 2015-10-15 9:00 – 13:00

場所 : オーストリア規格協会 (ウィーン)

議長 : Claire Creaser (英国)

出席者 : フィンランド、フランス 2 名 , 米国 , 英国 , ノルウェー , デンマーク , 日本 , 韓国 2 名

2 . 出席者自己紹介

3 . 議事次第承認

4 . 議事

改正の準備として , 次の問題点が提出され , それぞれ検討された。

SC8 のもとで作成された博物館やアーカイブズの新しい規格やテクニカルレポート , 及び ISO5170 の新しい版について検討しておく必要性が指摘された。

来館及び仮想訪問の時間をどのように測るかの意見交換が行われた。

ファインランドから提出された「連合図書館 (combined library)」の定義が , 若干の修正のもとに承認された。

テキストマイニングやダウンロード統計について議論が行われた。

オルトメトリックスの進展に関する NISO の動きについて , ISO 2789 の改正にどのような部分が必要となるかを検討する。

COUNTER の実務指針 (code of practice) は , 電子的資源利用測定のデファクトスタンダードなっている。これをどのようにとりこんでいくか , また , PDA をどう定義し , その利用をどのように測定するか , 電子書籍貸出をどのように測定するかなどについてさらに検討する。

実利用者に仮想利用者を含めるかどうか , どのように把握するかが検討された。

学校図書館における利用者教育についてはこれまで議論が少ない。なお , ISO5127 の user education と 2789 の user training という二つの定義や , user consultation という新たな動きもある , これらの関係を明確にする必要がある。

図書館のアウトソースが進展するなかでの図書館職員のカテゴリーについて議論された。

スタッフ研修に関して , 現規格は専門職のディベロップメントについて十分対応できていない。ウェールズの定義がよいとの指摘もあった。

SNS をどの程度カバーするかについての議論があり , 固有名称を使わずに定義することとし , 改正は当面不要とした。

上記の議論から各課題についての原案作成担当者を決めた。

2016年2月までに各担当者からの原案を提出し、次回に検討
2018年に次期改正を実施する